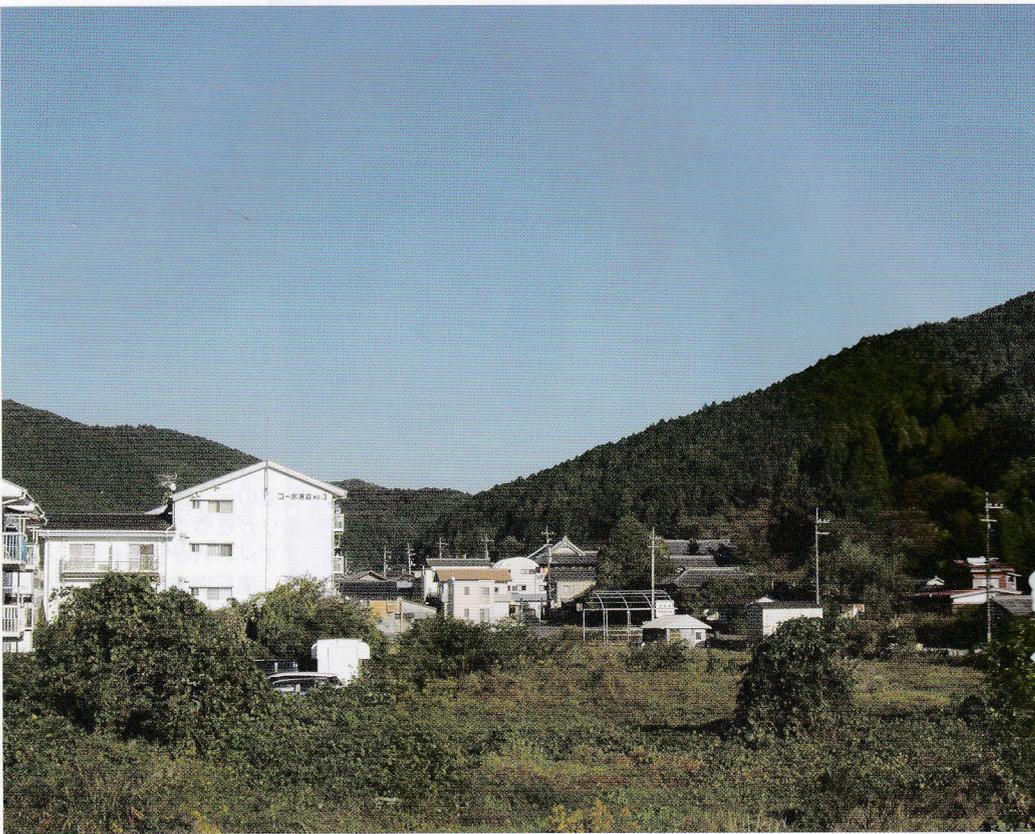


# 茂串町

しげくし  
まち



## 現在

在219世帯、435人が暮らしている茂串町を、今月と来月の2回にわたってご紹介したい。

国道381号がで  
きるまでは、岩本寺の  
門前を東西に走り、旧  
半平旅館の前を過ぎ、  
古市町方面へと抜ける  
通りがメインスト  
リートで、この道が伊  
予・宇和島へ向かう「旧街道（窪川街  
道）」であった。現在の本庁舎前の南  
北の通りと、この旧街道が交わるT  
字路辺りから西側一帯が茂串町であ  
る。

この町の歴史は古く、戦国期にさ  
かのぼる。明応9年（1500年）、遠  
く相模の国・鎌倉の地から来住した  
窪川氏が、茂串山の頂に城を築き（茂  
串山城＝繁石「しげいし」山城とも窪  
川城ともいう）、麓には土居を構えた。  
この土居を中心に街が形成された。  
窪川氏は、仁井田五人衆の一人であ  
り、この五人衆の中では最強とされ  
ていたようである。

さて、鎌倉の地からやって来て、茂  
串山城を築いたのは、備後守宣澄で  
ある。その子・充秋の頃、一条氏の配  
下となった後、長宗我部元親の幕下  
に入る。1592年の文禄の役では、  
充秋の子・宣秋と七郎左衛門の兄弟  
が出兵するのであるが、この時に2  
人とも戦死する。これによって跡継



大井野から窪川の街を望む。  
戦国期には右の茂串山に、  
江戸期には左の古溪山に城が築かれた。

ぎを失った窪川  
家は断絶してし  
まう。その後、元  
親は2名の家臣  
をこの地の統治  
にあたらせたが  
うまくいかず、新  
たに八木正久と  
いう家臣のもと  
に20人の一領具  
足（いちりょうぐ  
そく）長宗我部

氏が兵農分離前の武装農民や地侍を  
対象に編成、運用した半農半兵の兵  
士）をつけこの地を守らせた。この20  
人の一領具足たちが居住していたエ  
リアを「二十人島（にじゅうにんぼ  
た）」という。現在の社会福祉協議会  
があるあたりである。

長宗我部氏滅亡後は、山内一豊の  
命を受けた林勝吉（後に山内一吉と  
名乗る）が、古溪山城を築き窪川一帯  
を治めることになる。その後の展開  
は、新開町の巻で記した通りである。

ところで、茂串山の麓、現在の旧半  
平旅館の裏手辺りに東光寺というお  
寺があった。これは、窪川氏の菩提寺  
で、備後守宣澄がこの地に来た時に  
開いたとされる。しかし、明治4年、  
吹き荒れる「廃仏希釈運動」の中で廃  
寺となってしまった。また、役場旧庁  
舎水道課があった所には、窪川山内  
氏の菩提寺であった浄照寺というお  
寺があったのだが、それも今はない。  
(次号へ続く)

(9月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,305	-15	男 4	20	10	9
女	9,259	-14	女 4	21	11	8
計	17,564	-29	計 8	41	21	17
世帯数	8,594	-4	(9月中の届出)			

窪川地域 12,334人 大正地域 2,501人 十和地域 2,729人

### 四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	10月3日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.428
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.410

調査：大正（吾川）  
資料：四万十高校自然環境部